



# 報 部 支 西 関

No.144

日本山岳会関西支部  
<http://www.jackansai.com>

2011年9月

## 北壁は遠くなりにつけり

重廣恒夫

### パートナーの突然死

1980年春、チヨモランマ北壁日本人クローアルルート工作中、落石によるケガと気管支の不調で2度も戦線を離脱しながら、不死鳥のように蘇り8848mの頂に立った尾崎隆が5月12日春のエベレストであっけなく逝ってしまいました。享年58歳、加齢による身体能力の減退に由来する障害や酸素器具の不具合など突然死の要因は色々考えられますが、それにしても世界最高峰の北壁新ルート、南東稜の冬季登山に成功し、これまで8000m峰6座に8回立った猛者にいったい何があつたのでしょうか。「一生、山に登っていききたい」と言っていたにしては余りにあつけない幕切れでした。

### チヨモランマ北壁初登攀

79年6月、第二次大戦後初めてのチヨモランマ登山の許可が日本山岳会にもたらされました。年が明けた80年2月22日に東京を発った登山隊は、3月6日夢にまでみたチヨモランマのべ

ースキャンブに到着しました。24日に6150mの地点に前進基地が開設され、翌日から北壁のルート工事が開始されました。その後順調にルートが伸びて4月25日にはホーロンバイン・クローアルを突破して8450mに到達しました。4月27日登頂計画が発表されました。これまで終止ザイルのトップに立つて北壁のルートを切り開いた高見さんが右足指の凍傷で離脱し、第一次隊に尾崎・和田昌平・重廣、第二次隊に小林利明・宇部明が決まり、5月2日頂上へと向かいました。しかし、チヨモランマ北壁は聞きしに勝る峻厳な岩壁でした。第一次隊は降雪と時間切れで登頂を断念、二次アタック隊の宇部明隊員が雪崩で遭難死するというアクシデン

## 目次

北壁は遠くなりにつけり	重廣恒夫	1
支部山行報告		
4000山グランプリ		
(第13回)	黒田記代	2
ゆるやか山行	北撰・京都西山を	
歩く1	宗實慶子	4
近畿分水嶺踏査		
(第26回)	佐野加代子	4
ゆるやか山行	北撰・京都西山を	
歩く2	廣瀬健三	5
4000山グランプリ		
(第15回)	橋本圭之輔	6
近畿分水嶺踏査		
(第27回)	岩崎しのぶ	7
ゆるやか山行	北撰・京都西山を	
歩く3	横山規江	8
4000山グランプリ		
(第16回)	青木 昭	9
近畿分水嶺踏査		
(第28回)	松村竹次郎	9
柏木宏信さんを偲ぶ	金井健二	10
第6回 委員会議事録		11
第1回 委員会議事録		12
第2回 委員会議事録		13
藤木祭のご案内		14
山と銘酒 ①兵庫	尾野益大	14
オビニオン		
ある遭難について	加藤芳樹	15
支部山行計画	11年10月・12月	16
著者と語る会のご案内		18
自然保護行事		18
編集後記		19

